

(概要版)

# 中学校キャリア教育における 将来設計能力を育成する指導の工夫

— 進路学習の体系化と、キャリア発達にかかわる能力・態度等の  
統合・深化を促す「将来設計図」の作成・活用を通して —

長期研修員 山口 敏行

## 1. 主題設定の理由

### 現状と課題

— 現在の学習と将来の仕事が結び付かない中学生 —

#### TIMSS2007の結果より

「キャリア教育って結局何なんだ？」H21.3(国立教育政策研究所)

将来、自分が望む仕事に就くために、良い成績をとる必要があると答えた割合(中学2年生)

	アメリカ	イギリス	香港	エジプト	日本
数学	85%	77%	76%	88%	57%
理科	62%	60%	64%	87%	45%

学ぶ必要性を感じていない。

キャリア教育には、将来を見通して学ぶ意義を実感させることが求められています。

目指す将来に向けて必要な学びを明確にし、その目標を達成するために努力する態度を育てることが重要だと考えました。



「キャリア教育を充実させるために」  
群馬県教育委員会) H20. 3

児童生徒が学ぶことの意義を体得したり、社会生活や将来の職業生活における学習の必要性や自己有用感を認識したりできるようにすることが大切である。

## 将来設計能力

に着目!

「キャリア教育推進の手引」  
(文部科学省) H18. 11

中学校での進路選択は、卒業後の進路先の的確な情報収集のもとに、将来を見通して、自己の興味・適性・能力に対する十分な理解と検討の上に、自らが納得のいくものにすることが望ましい。

「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」より

職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例) — 中学期の将来設計能力について抜粋 —

領域	キャリア発達にかかわる諸能力		キャリア発達を促すために育成することが期待される
	領域説明	能力説明	具体的な能力・態度
将来設計能力	夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、社会の現実を踏まえながら、前向きに自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその他の関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての認識を深めていく能力	⑮自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための役割分担やその方法等が分かる。 ⑯日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ⑰様々な職業の社会的な役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	⑱将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 ⑲進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。 ⑳将来の進路計画に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。

国立教育政策研究所生徒指導センター 平成14年11月

※「キャリア教育推進の手引」(文部科学省)を参考に、表中の『職業的(進路)発達』を『キャリア発達』と表記している。

「将来設計能力の育成」を取り組むべきキャリア発達課題として、まず、**進路学習の体系化**を行い、次に、**将来設計図の作成・活用**の学習単元を構築し、キャリアプランニングプロセスの考え方を取り入れながら、今まで培ってきたキャリア諸能力の**統合・深化**を図りました。



「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(中央教育審議会) H22. 5

○(学校でのキャリア教育が)必ずしも**系統的・組織的**に取り組まれてきたとは言い難い部分がある。  
○各学校段階で**取り組むべき発達課題を明らかにし**、日々の教育活動を通して達成を目指すものである。  
○学校生活と社会生活や職業生活を結び、**関連付け、将来の夢と学業を結び付けることにより、学習意欲を喚起することの大切さが確認**できる。

## 2. 研究の概要

### (1) 進路学習の体系化

将来設計能力育成の観点で、中学校3年間のキャリア学習を見直し、以下の①～③の段階を踏まえて、従来の学習活動をとら直すことで、進路学習の体系化を図りました。

#### ① 発達段階に応じた能力・態度の明確化

各学年で目指す、将来設計能力にかかわる具体的な能力・態度を明確にしました。

発達段階に応じた、将来設計能力の具体的な能力・態度						
夢や職業を思い描きながら将来の生き方や生活を考え、自分の目指すべき将来を暫定的に計画し、それに基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力できる能力						
	役割把握・認識能力		計画実行能力			
1学年	自分の役割やその進め方が分かる。	卒業後の自分をイメージしながら、望ましい中学生活の送り方を考える。	世の中には様々な職業があることを認識し、自分に適した職業を考える。	将来の夢や職業を思い描き、自分にとってふさわしいものは何か考える。	自分の目標に向けて計画を立てる意義に気づき、実際に立案する。	定期テスト等を中心に学習計画を立て、目標達成に向けて努力する。
2学年	よりよい集団活動のための、自分の役割や進め方が分かる。	将来の自分の生き方と、現在の日常生活や学習とのつながりに気付く。	体験学習を通して、職業がもつ社会的な役割や意義に気づき、自分なりの勤労観や職業観をもつ。	体験学習を通して、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。	進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画する。	暫定的な進路計画に基づき、当面の目標を設定し、達成に向けて努力する。
3学年	場面や場所、周囲の状況に応じた、自他の立場や役割、適切な言動や進め方が分かる。	自分の将来をよりよいものにするという視点で、日常生活や学習を見直し、改善する。	自分の勤労観や職業観を基にして、様々な職業の役割や意義をとらえつつ、自分の生き方を考える。	社会の状況と自分の進路計画とを結び付けながら、将来の夢や職業を現実的にとらえる。	目標とする将来の生き方や進路を実現するための、現実的な進路計画を立てる。	現実的な進路計画に基づいて具体的な目標を設定し、達成に向けて努力する。

#### ② 有効な学習活動の精選と、単元ごとの評価規準の設定

3年間を見通して、将来設計能力の育成に有効と考えられ、単元として構成できる学習活動を選び出しました。そして、①で示した一覧表を基にして、各単元ごとに目指す生徒の姿と、三段階の評価規準(A・B・C)を設定しました。

1学年	2学年	3学年
<ul style="list-style-type: none"> <li>○宿泊体験学習(高原学校等)</li> <li>○ボランティア体験(福祉)</li> <li>○自分探し(自己理解の学習)</li> <li>○職業調べ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○職場体験学習</li> <li>○将来設計学習【本研究】</li> <li>○上級学校調べ</li> <li>○ボランティア体験(環境)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○修学旅行</li> <li>○進路ガイダンス</li> <li>○上級学校訪問</li> <li>○進路計画・進路相談</li> </ul>

単元ごとに「目指す生徒の姿」とABCの評価規準を設定

有効な学習活動や体験学習の精選

将来設計学習(2年)より一部抜粋

将来設計能力におけるめざすべき生徒の姿【評価規準】  
※丸数字は、国研の示す「枠組み(例)」における「具体的な能力・態度」の記載順を示したものである。

【役割把握・認識】  
⑯「将来設計図」の作成を通して、現在の生活や学習と、将来の生き方との結びつきがわかる。  
・A…将来設計図の作成を通して学ぶ意義を見出し、将来の夢や職業と関連させながら、自分の言葉で表現する。  
・B…将来設計図の作成を通して学ぶ意義を見出し、自分の言葉で表現する。  
・C…学ぶ意義が見出せない。

⑰自分なりの勤労観・職業観を基に、将来の自分の夢や職業及び生活(ライフスタイル)等について考える。  
・A…勤労観や職業観を基に、働くことの意義について職業をとらえ、果たす役割やその意味と結び付けて自分の言葉で表現でき、前向きに将来の生き方を考えようとしている。  
・B…勤労観や職業観を基に、働くことの意義について自分の言葉で表現でき、将来の生き方を考えようとしている。  
・C…勤労観や職業観の構築が不十分で、自分の考えが表現できない。

#### ③ 他の能力領域及び単元相互の関連付け

単元ごとに、かかわりのある他の3能力領域(具体的な能力・態度)を示し、また、単元どうしの発展性(学年間のつながり)や関連性(学年内のつながり)を示しました。

他の能力領域で学習にかかわる能力・態度 ※丸数字は「具体的な能力・態度」の記載順を示したものである。	学習活動間の系統性 ※丸数字は「発展性・関連性」の記載順を示したものである。
<p>【情報収集・探索】 ⑩生き方や進路に関する情報を様々なメディアを通して調査・収集・整理し活用する。</p> <p>【職業理解】 ⑫将来の職業生活との関連の中で今の学習の必要性や大切さが理解できる。</p> <p>【選択】 ⑪自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択を行おうとしている。</p>	<p>【発展性】⑯・⑰・⑱・⑳</p> <p>自分さがし(1年) ↓ 本単元 ↓ 進路計画・相談(3年)</p> <p>【関連性】⑯</p> <p>本単元 ↓ 上級学校調べ ↓ 調査追究活動(環境)</p>

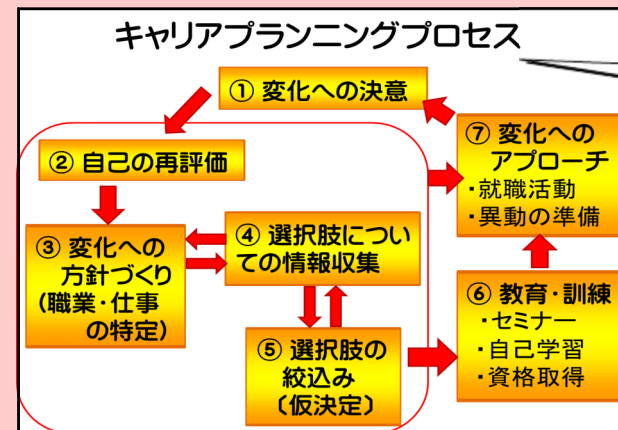
←将来設計学習(2年)より一部抜粋



以上の段階を踏まえ、  
①単元名(含、キャリア発達課題)  
②目指す生徒像と評価規準  
③他の能力や単元との関連性を、単元ごと(時系列)にまとめた資料を作成しました。  
単元計画や指導案立案の補助資料としてだけでなく、ねらいや評価・系統性を具体化したことで、教師自身も「見直しをもった」指導ができるようになります。

### (2) 将来設計図の作成・活用

将来の夢やキャリア発達の道筋、現在の行動目標などを1枚に収めた進路計画書の作成を通して、学ぶ意義を実感し、目標達成に向かって努力できる力を高めることをねらいとしました。

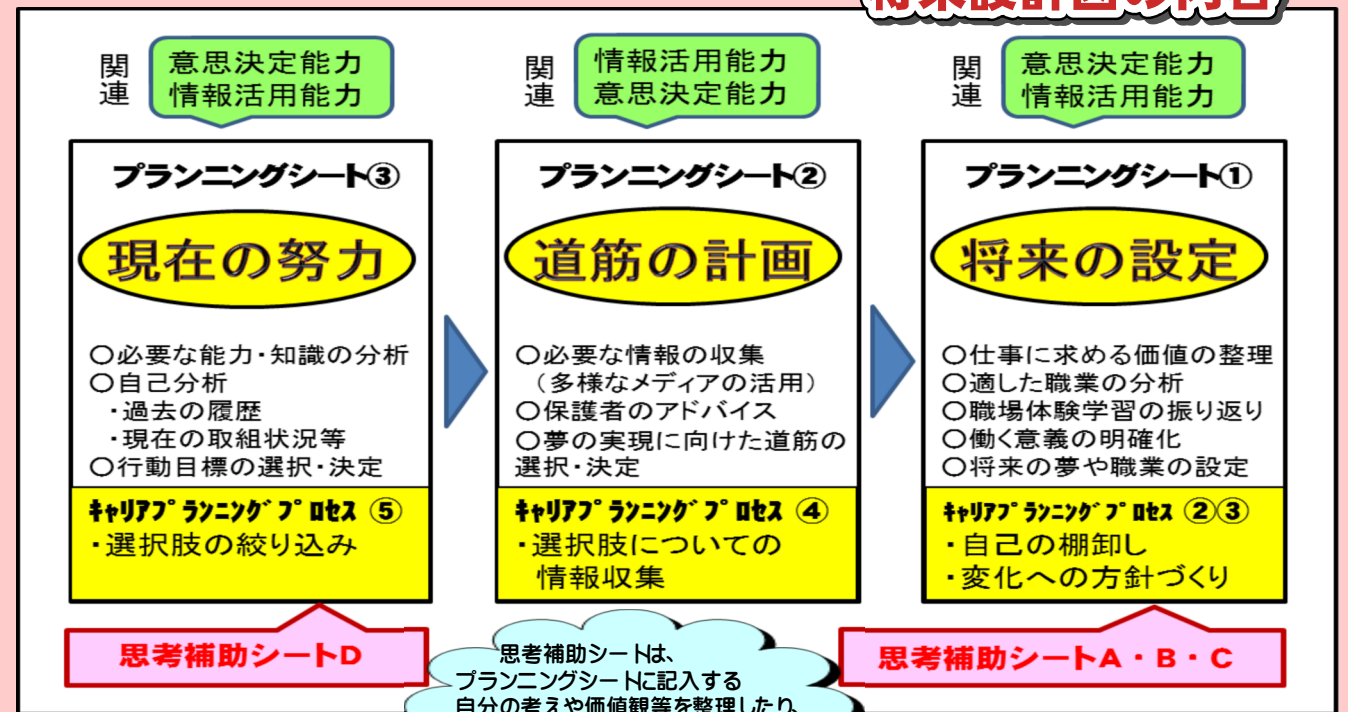


キャリアについて計画を立てるときに、キャリアアドバイザー等が用いる、方向性を決定するための行動のしかたを表すものです。

中教審の第二次審議経過報告(H22.5)における、「自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力」(キャリアフロンティック能力)の育成を視野に入れ、キャリアフロンティックの考え方を取り入れて、将来設計図を考案しました。



#### 将来設計図の内容



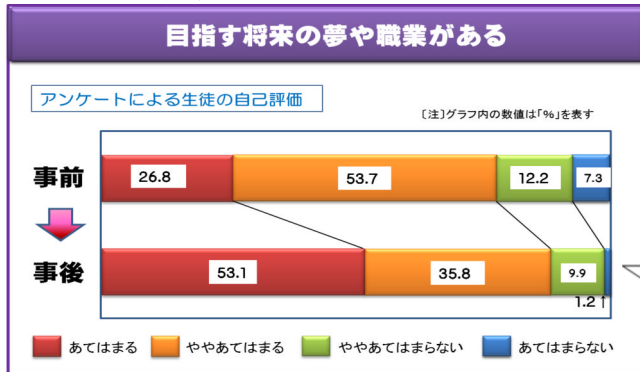
思考補助シートは、プランニングシートに記入する自分の考えや価値観等を整理したり、分析したりするのを助ける役目をもつワークシートです。

プランニングシート③にまとめられた生徒の記述例

	選んだ職業	必要な能力・知識と行動目標①	必要な能力・知識と行動目標②	必要な能力・知識と行動目標③
生徒A	物理学者	【文章をまとめる力】 毎月3冊以上、本(小説)を読む/辞書を見て様々な言葉を覚える/思ったことについて普段から文を書くようにする	【英語力】 新しく習った単語、今まで習った単語、文法を3日おきに勉強する/ある程度学力がいたら英語の本を読む	【専門の知識】 図書館で本を借りて読む/実験器具などの名前や使い方を覚える/分からないことがあったら先生に聞く
生徒B	商社マン	【世界地理の知識/世界情勢などの知識】 社会の教科書を読み返し疑問点を調べる/世界情勢について本を読む/授業に出てきた国についてその日のうちに調べて覚える	【コミュニケーション力】 友だちとの会話でも注意してしゃべる/英語の授業で積極的に発言する/初対面の人でも積極的に話すようにする	【文章を書く力】 授業の内容を家でノートにまとめる/漢字練習を毎日1ページ以上、新出はその日のうちに復習して覚える/新聞を毎日読み、感想を書く
生徒C	洋菓子職人	【菓子についての知識/衛生管理】 家庭科の授業をしっかりと受け、必要ことはメモを取る/家で積極的に菓子を作る/母から教わったことをノートにまとめる	【英語】 積極的に授業を受ける/週に1回以上は必ず発言する/授業の予習(単語)・復習を毎日する	【文章を書く力】 週に1冊は本を読む/漢字練習を毎日1ページする/授業を真剣に受け、思いついたり大切だと思ったりしたことはノートに書く

### 3. 研究の結果と考察

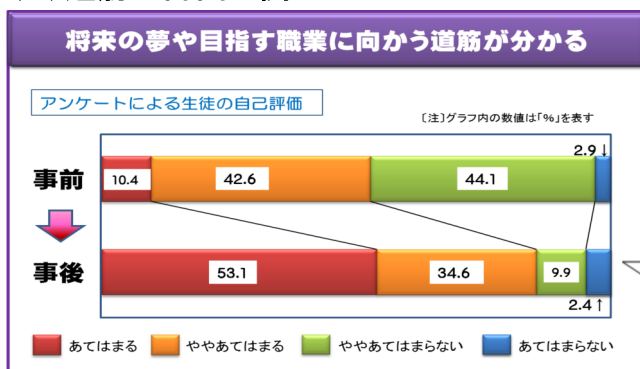
#### (1) 将来の設定に関して



おおむね満足  
できる割合 **88.9%**

【考察】 まず、3枚の思考補助シート(A・B・C)を用いて興味・適性・価値観の把握を主とした自己理解を促しました。次に、そこで得られた分析結果を、プランニングシート①を用いて関連付けながら、適した職業を設定する方法を理解できたことが、夢や職業の具体化に有効であったと考えます。

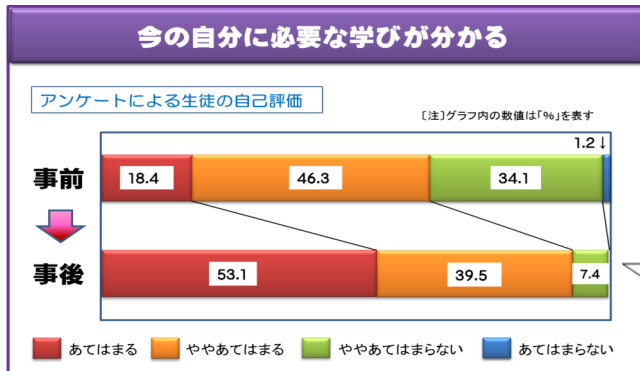
#### (2) 道筋の計画に関して



おおむね満足  
できる割合 **87.7%**

【考察】 多様な情報源から有益な情報を得られたことで、生徒は将来設計図を作ることに意欲的になりました。また、プランニングシート①及び②を用いて、情報収集の観点やまとめ方を提示したことは、スムーズな情報収集を促し、主体的な計画の立案に有効であったと考えます。

#### (3) 現在の努力に関して



おおむね満足  
できる割合 **92.6%**

【考察】 まず、思考補助シートDを用いて夢の実現のために必要な能力・知識を分析しました。次に、プランニングシート③を用いて、具体的な行動目標の選択・決定や、自分の言葉で学ぶ意義についてまとめたりしたことが、目標の達成に向かって努力できる力を高めるのに有効であったと考えます。

### 4. 成果と課題

成果

・進路学習の体系化に基づいて作成した「将来設計図」により、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく過程を経験させたことで、将来設計能力を高めることができました。

課題

- ・今回の学習プログラムは、多くの中学校で実施されている学びや体験学習の成果を利用した実践として、汎用性があることが分かりました。
- ・2年次の9～11月に7時間を配当して実践を行ったが、活動のまとまりごとに、年間を通して配置するなど、より効果的なプログラムの在り方を探る必要があります。
- ・将来設計能力だけでなく、他の能力領域を中心に据えた進路学習の体系化も考えられるので、生徒の実態に合わせた学校独自のキャリア教育を創造していく必要があります。

問い合わせ先

群馬県総合教育センター  
担当係: 高校教育研究係

0270-26-9214(直通)